





会 告

平成 17 年度「研究グループ」の助成金募集について	79
「農業土木学会誌」読者の氏名公表とご協力のお礼.....	79
「農業土木学会論文集」	80
農業土木学会論文集印刷用（完全版下）原稿作成について.....	81
農業土木学会論文集投稿料の改定について（再々）.....	81
投稿原稿の閲読状況が確認できます！	81
国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」の配布について	82
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿の勧め.....	82
農業土木学会誌への投稿お待ちしております！小特集以外の投稿も歓迎します.....	83
新コーナー：「私の勤める本」の原稿を募集しています！	84
あなたの写真で学会誌の表紙を飾ってみませんか 平成 18 年「農業土木学会誌」表紙写真の募集	84
国際水田・水環境工学会 2005 年国際研究集会の開催について 	85
既刊の土地改良事業計画設計基準の正誤表について.....	86
日本農業工学会第 21 回シンポジウム	86
論文集第 236 号の内容紹介	87
学会記事	90

農業土木学会（本部）行事の平成 17 年度計画

農業土木学会（本部）17 年度行事について、下表のように計画しています。奮って参加下さるよう、お待ちしております。

 のマークが付されているものは農業土木技術者継続教育認定プログラム、または認定申請中  を表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成 18 年 8 月 23～26 日	平成 17 年度大会運営委員会	平成 17 年度大会講演会 		岐阜大学	74 巻 1 号

第 73 巻 5 号予定

展望：田中 忠次

特別企画：新たな食料・農業・農村基本計画の策定と資源保全施策

新たな食料・農業・農村基本計画と農政改革の推進：角田 豊

農地・農業用水等の資源保全施策の構築に向けて：仲家 修一他

地域における農地・農業用水等の資源保全活動の実態：田中 秀明他

農村地域の環境保全活動に関する実態把握と類型化・体系化の試み：細谷 裕士他

資源・環境の保全に向けた富山県の取組：永森 雅之

小特集：技術者資格の国際化対応の現状と課題

農業土木における技術者教育・資格制度・継続教育：大橋 欣治

技術者教育認定制度の現状と課題：福崎 弘

技術士ビジョン 21：小出 剛

国際協力の現場における技術者に必要なもの：服部九二雄

国際化に耐えうる農業土木技術者の教育とは何か：小林 晃

技術リポート

北海道支部：農業土木技術者の新たな活動の試みについて：吉田 裕二

東北支部：入間沢川横断橋梁工の設計・施工について：丸山 修

関東支部：河川横断サイホンにおける改修工法：内田 一彦

京都支部：広域営農団地農道整備事業若狭西部地区における施工事例（今富大橋上部工）：村上 明聰

中国四国支部：田んぼを舞台とした自然文化体験活動の実践：柏原 直樹他

九州支部：有明海から生まれた白石平野：井 敏春


講座：生物・社会調査のための統計解析入門：調査・研究の現場から（その 10）：総合化する（主成分分析と数量化 類）：合嶋 英男

小講座：農業農村整備事業における GIS：野口 哲也

私のビジョン：わが国の食料生産と水源施設の将来：千原 英司

論文をかたる：吉永 安俊

農業土木学会関連行事予定

平成 17 年 9 月 7, 8 日	農村計画研究部会	平成 17 年度第 27 回現地研修集会		豊かな農村資源を未来へ 地域が取り組むさまざまな 保全のかたち	福井市	73巻2号
-----------------------	----------	----------------------	---	---------------------------------------	-----	-------

学会誌 73・74 巻の小特集・特別企画のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判 1500字以内)	原 稿 締 切 (刷り上げ 4ページ厳守)
73 巻 5 号 技術者資格の国際化対応の現状と課題		
6 号 大会関連 京都支部 (仮)	公募なし	平成 17 年 1 月 14 日
7 号 現場における農業土木技術 (仮)	公募終了	平成 17 年 2 月 15 日
8 号 農業土木の防災技術 (仮)	"	平成 17 年 3 月 15 日
9 号 農村における生物多様性, 外来種(移入種)を巡る現状と課題(仮)	"	平成 17 年 4 月 15 日
10 号 施設管理の 20 年の歴史を振り返る (仮)	公募なし	
11 号 農業水利施設のストックマネジメント (仮)	平成 17 年 4 月 25 日	平成 17 年 6 月 15 日
12 号 ブロック編集号	平成 17 年 5 月 25 日	平成 17 年 7 月 15 日
74 巻 1 号 おらが町の地域再生・町づくり (仮)	平成 17 年 6 月 24 日	平成 17 年 8 月 15 日
2 号	公募なし	
3 号 地域資源管理と農業土木政策の展開 (仮)	平成 17 年 8 月 25 日	平成 17 年 10 月 15 日
4 号 農村景観法 (仮)	平成 17 年 9 月 22 日	平成 17 年 11 月 15 日
5 号 農業土木の国際化のあゆみ (仮)	平成 17 年 10 月 25 日	平成 17 年 12 月 15 日

上記のテーマに沿った報文の投稿をお待ちしております。

なお、小特集のテーマは仮題となっておりますので、予告なく変更することがございます。会告 83 ページに掲載されている特集の趣旨をお読みいただいた後、公募要旨を学会誌編集委員会あてにお送りください。

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、73 巻 1 号および農業土木学会ホームページに収載の「農業土木学会誌投稿要項」、「農業土木学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

平成 17 年度「研究グループ」の助成金募集について

研究委員会

「研究グループ」の育成を目的とし、下記取扱い内規によって研究助成を行います。

助成金額は原則 1 件 20 万円程度、3 件以内です。

本年度の申請締切は、平成 17 年 6 月 24 日（金）ですので、助成金を希望される方は期限までに、所定の様式（学会 HP 参照）で研究委員会委員長宛にお申込み下さい。

試験研究機関，行政，大学，民間等からの応募を歓迎いたします。

「研究グループ」への助成金取扱い内規

1. **申請**：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究グループ」への助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4. 助成対象」に示すとおりとする。
2. **認定**：研究委員会は助成金申請のあった「研究グループ」につき、その可否を認定し、学会長に報告する。
3. **配布**：研究委員会は認定した「研究グループ」に対し、「研究連絡費」として助成金を配布する。ただし、その配布は原則として 1 年とする。
4. **助成対象**：申請できる条件（助成対象）は次のとおりとする。
 - (イ) 具体的な研究テーマをもち、しかもその研究分野が現在立ち遅れており、それを研究することが学会の研究活動の発展に対して新しい芽になりうること。
 - (ロ) 「研究グループ」の構成は本学会員を主とし、構成員は自らその研究に携わる分担者であること。
 - (ハ) 「研究グループ」には代表者（本学会員）をおき、構成員は原則として 3 名以上、それらの所属する機関が二つ以上あること。
 - (ニ) 「研究グループ」のすべての構成員の年齢は、助成金申請締め切り日に 36 歳未満であること。
5. **活動報告**：助成金を配布された「研究グループ」は助成金配布後 1 年以内に活動報告^{注1)}を研究委員会に提出すること。
 - 注 1) 研究経過報告書の執筆にあたり、農業土木学会誌原稿執筆の手引きを参考とし、学会誌刷り上がり 1~2 ページに収まるようにまとめること。
 - 2) 「研究グループ」からの研究経過報告は研究委員会で承認の上、学会誌に掲載する。

「農業土木学会誌」読者の氏名公表とご協力のお礼

農業土木学会誌編集委員会

農業土木学会誌は、昭和 4 年の学会創立とともに、農業土木研究として刊行され、以来、戦中の一時期を除き、多くの方々のご協力により発行することができました。

とりわけ、読者の方々には多大なるご協力をいただき、感謝申し上げます。

農業土木学会誌編集委員会では、読者への感謝の意を表すべ

く、平成 11 年度から氏名を公表（五十音順・敬称略）させていた

だくことといたしました。ここに、2004 年 4 月から 2005 年 3 月までの期間に、

ご協力いただきました方の氏名を公表させていただきます。

ほんとうにありがとうございました。今後とも、ご支援ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

青 山 咸 康	大 野 研	小梁川 雅	竹 村 武 士	中 村 良 太
赤 江 剛 夫	岡 野 光 男	笹 田 勝 寛	田 村 孝 浩	長 坂 貞 郎
石 川 雅 也	風 間 彰	篠 原 源	土 原 健 雄	西 本 均
石 田 朋 靖	加 藤 亮	嶋 栄 吉	渡 嘉 敷 勝	袴 田 共 之
石 丸 正 一 郎	唐 澤 近 志	志 村 も と 子	中 達 雄	樋 口 清 司
伊 藤 絹 子	北 村 義 信	鈴 木 重 憲	中 井 雅	日 高 正 人
岩 淵 和 則	木 下 秋 彦	鈴 木 正	中 桐 貴 生	藤 崎 浩 幸
岩 本 彰	國 光 洋 二	関 勝 寿	中 田 摂 子	藤 本 直 也
内 田 一 徳	久 保 成 隆	千 家 正 照	中 野 芳 輔	牧 恒 雄
浦 杉 敬 助	小 林 晃	高 木 繁 光	中 村 和 正	牧 山 正 男
大 坪 成	駒 村 正 治	竹 内 康	中 村 公 人	松 井 宏 之

松尾貴充	御前孝仁	安田政彦	山下裕作	万木正弘
松岡生磨	村島和男	山岡賢	山路永司	吉野邦彦
松田晴夫	森井俊広	山下等	袖山義人	渡部邦夫

「農業土木学会論文集」読者の氏名公表とご協力のお礼

農業土木学会論文集編集委員会

農業土木学会論文集は、昭和35年10月発行の「農業土木研究別冊1号」から教えて、平成17年4月には、通算236号を数えることとなりました。投稿される論文数も年々増加し、その分野も徐々に広がりつつあります。このような環境の中で、読者各位のご支援・ご協力によって、つつがなく236号までの刊行が可能でありましたことを、深く感謝申し上げます。

農業土木学会論文集編集委員会では、感謝の意を表したく、平

成11年度から読者を公表(五十音順・敬称略)させていただくことといたしました。

ここに、2004年4月から2005年3月までの期間に投稿原稿を閲覧いただきました読者の氏名を公表させていただきます。

ほんとうにありがとうございました。

今後ともご支援・ご協力を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

合崎英男	緒方英彦	駒村正治	渡嘉敷義浩	藤咲雅明
赤江剛夫	小川茂男	斉藤憲治	戸田任重	藤原正幸
明田定満	荻野芳彦	酒井一人	富永雅樹	藤巻晴行
東信行	奥島修二	酒井俊典	友正達美	藤森新作
足立泰久	角道弘文	佐久間泰一	取出伸夫	古谷保
安部征雄	風間秀彦	櫻井泰弘	中達雄	星野敏
有田博之	加治佐隆光	佐々木長市	中桐貴生	前川俊清
安養寺久男	加藤治	佐藤周之	中嶋勇	牧山正男
石井敦	加藤徹	嶋栄吉	中野芳輔	増川晋
石井将幸	加藤誠	島崎昌彦	仲野良紀	増本隆夫
石川重雄	角屋睦	島田清	中村公人	松本伸介
石黒覚	軽部重太郎	清水英良	中村貴彦	松本康夫
石黒宗秀	河地利彦	清水庸	中村好男	松本泰尚
石田憲治	河端俊典	白谷栄作	長澤徹明	三浦健志
石田朋靖	川本健	杉山博信	長野宇規	三沢真一
泉完	北辻政文	関勝寿	成岡市	水谷聡
伊藤健吾	北村義信	千家正照	西村真一	水谷正一
稲垣仁根	木ノ瀬紘一	宗村広昭	西村伸一	溝口勝
井上一哉	木全卓	高瀬恵次	西村拓	三原真智人
井上京	木村真人	武田育郎	野中資博	三宅康成
井上博道	工藤明	多田明夫	登尾浩助	宮崎毅
井上光弘	國光洋二	田中忠次	八丁信正	宗像義之
岩佐郁夫	久保成隆	田中勉	服部俊宏	村上章
岩淵和則	倉島栄一	田中恒夫	橋本禅	毛利栄
宇波耕一	黒田久雄	田中丸治	端憲二	森淳
遠藤和子	小出水規行	谷茂	浜口俊雄	森也
大上博基	向後雄二	田淵俊雄	原田昌佳	森也寸志
大久保博	河野英一	樽屋啓之	伴道一	森井俊広
大澤啓志	甲本達也	丹治肇	秀島好昭	守田秀則
大坪政美	小林晃	近森秀高	平松和昭	矢内純太
大野研	小林範之	月岡存	福江正治	矢木勤

矢部 勝彦 山本 太平 吉田 信之 渡辺 紹裕
山路 永司 柚山 義人 吉永 秀一郎

農業土木学会論文集印刷用（完全版下）原稿作成について

農業土木学会論文集編集委員会

農業土木学会論文集では、平成 10 年 4 月 1 日以降受付の論文から、掲載適となった論文の最終原稿を A4 版完全版下で提出いただくこととなっております。

しかしながら、規定の書式に則って作成されていない原稿がまだまだ多く寄せられております。これらにつきましては、これまで事務局から修正のお願いをし、印刷して参りましたが、昨今、印刷の質が悪いというご意見が多数事務局に寄せられるようになっております。

論文集編集委員会では、平成 10 年からすでに 7 年を経ており、現在はもう過度期でないとの判断から、下記のように対応させていただきますこととなりました。

投稿者の皆様のご理解とご協力をいただきますよう、よろしく

お願いいたします。

記

1. 論文集の品質の向上を図るため、掲載適となった論文の**最終 A4 版完全版下原稿**が、投稿の手引き（学会ホームページに掲載）に則って作成されていない場合には、再提出をお願いすることといたしました。
2. 再提出されない場合には、掲載を見合わせることもありますので、ご注意ください。
3. 完全版下原稿を作成されることが困難で、かつ身近に版下作成業務を請け負う業者がない場合には、学会事務局が業者を紹介いたします。

農業土木学会論文集投稿料の改定について（再々）

農業土木学会論文集編集委員会

農業土木学会論文集編集委員会は、閲覧料を平成 16 年度から値下げしたことに伴い、投稿料について、平成 16 年度第 1 回委員会（16.4.16 開催）および第 2 回委員会（16.7.20 開催）で検討を行い、投稿料値下げを決定し、定期刊行物委員会の審議を経て、第 189

回理事会の承認を得ました。平成 17 年 4 月 1 日受付の原稿から実施いたします。

	改定後	現 行
投稿料	16,000 円	20,380 円

投稿原稿の閲覧状況が確認できます！

農業土木学会論文集編集委員会

農業土木学会論文集に投稿中の原稿の閲覧状況がホームページで確認できるようになりました。

以下の手順で検索して下さい。

学会ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp>）を開く。

「論文集」を選択。

「日本語」または「英語」を選択。

日本語の場合は「閲覧状況一覧」、英語の場合は「List of pa-

pers under reviewing」を選択。

投稿した年度を選択（受領ハガキに表示されている受付番号の上 2 桁が年度を表しています。例：「04101」の場合は、「2004 年度」を選択）

PDF ファイルの「閲覧状況一覧表」（受付番号、閲覧回数、閲覧依頼日、閲覧返送日）が表示されますので、自分の受付番号から閲覧状況を確認してください。

国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」の配布について

農業土木学会では、2003年1月に日本、韓国、台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国際機関等と連携して、新たな国際学会(国際水田・水環境工学会; International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES)を設立、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2005年3月末にはVol 3 No.1(Special issue: International Year of Rice)が発刊されました。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方が国際学会へ入会されることを望みます。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑(水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水(排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全(土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全(水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能(洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全(水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画(農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム(水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑨ 水田の多目的利用(田畑転換, 施設園芸)
- ⑩ 農業政策(農村振興, 条件不利地の支援策など)

水田農業を通じた国際的な研究交流, 情報交換の場として, 皆

様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと, 会員には国際ジャーナルが, 無料で配布されます。

なお, PAWEESの第2回 International Awardsの授賞式が, 去る10月21日, 韓国・安山市の韓国農業基盤公社ホールにおいて開催され, 国際賞(6名), 優秀論文賞(4名, うち沢田賞1名), 優秀読者賞(3名)がそれぞれ授与されました。詳細については, 本誌73巻3号pp 61~62をご覧ください。

出版社: Springer-Verlag社(ドイツ)

発刊スケジュール: 2003年3月創刊, 以後3カ月ごと

国際学会会費: 正会員 12,000円/年/4冊(送料等学会負担)

学生会員(院生含む) 8,500円/年/4冊(送料等学会負担)

申込先: 農業土木学会編集出版部 吉武宛

ホームページ: <http://www.jsidre.or.jp>

入会のお申込みは, 学会HP(<http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm>)の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ, メールまたはFAXでお申込みいただけます。

農業土木学会は, 300人の国際学会員を募る義務を負っておりますが, 現在会員数は273名(3月現在)と微増はしておりますが, いまだ目標会員数には達していません。そのため, 編集業務を含め年間数百万円の赤字体質となっております。この窮状をお察しいただき, 多くの新規入会のお申込をお願いします。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿の勧め

農業土木学会では、2003年1月に日本、韓国、台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国際機関等と連携して、新たな国際学会(国際水田・水環境工学会; International Society of Paddy and Water Environment Engineering)を設立し、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2005年3月末にはVol 3 No.1が発刊されました。

Vol 2 No.4(12月末発行予定)は、国際コメ年(International year of Rice)に連動した特集号となっております。

我が国においても学術誌の評価に、SCI(Science Citation Index)のIF(Impact Factor)が利用されており、本国際ジャーナルでもIFの取得により高い評価の定着を目指しています。

また、世界13カ国からEditor(13名)を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer Verlag社からの刊行です。

掲載論文は、Review, Article, Technical ReportおよびShort Communicationの4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、SCI獲得のために年4回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りませんが、**投稿料、掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

皆様方の多数の投稿を期待しております。

編集方針: 水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水, 土壌保全, 土地資源や水資源の保全と管理, 水田の多面的機能, 農業政策, 地域計画, バイオ環境システム, 生態系の保全, 水田保全, 田畑輪換等である。

編集体制:

• Editor in Chief: Dr. Yohei Sato (Japan)

• Editors および Editing Board には世界各国から**斯界の権威が**

就任しています。

- ・ Managing Editors : Dr . Yoshisuke NAKANO (Japan) , Dr . Nobumasa HATCHO (Japan) , Dr . Yoshito YUYAMA (Japan) , Dr . Ke Sheng CHENG (Taiwan) , Dr . Chun Gyeong YOON (Korea)

出版社 : Springer Verlag 社 (ドイツ)

投稿資格 : 筆者全員が国際学会員であること。

投稿先 : 農業土木学会気付・中野芳輔宛で受付。

投稿要領等 : <http://www.jsidre.or.jp> に詳細を記載しています。

PWE 原稿投稿状況報告 : 2003 年 1 月の PAWEES 設立から 2005 年 3 月までに、Editorial を除いて 109 本の投稿がありました。その国内内訳は、下記ようになっており、多くの国で認知されつつあることを、ご報告いたします。

国別投稿内訳 : 日本 73 , 韓国 17 , 台湾 3 , イタリア 2 , インドネシア 2 , フィリピン 1 , パキスタン 1 , メキシコ 1 , マレーシア 1 , スリランカ 1 , ナイジェリア 1 , 中国 2 , ブルガリア 2 , スペイン 2

農業土木学会誌への投稿お待ちしております！小特集以外の投稿も歓迎します

農業土木学会誌編集委員会

73・74 巻の小特集テーマのお知らせと報文原稿の募集

小特集のテーマに沿った原稿を、次表に従って広く会員から募集いたします。小特集以外の自主投稿も歓迎します。

また、今後取上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集いたします。なお、小特集のテーマは仮題となっておりますので、予告なく変更することがございます。特集の趣旨をお読みいただいた後、公募原稿要旨を学会誌編集委員会あてにお送りください。

採用された原稿の分量は、刷上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

学会誌第 73 巻 10 号～第 74 巻 5 号までの小特集のテーマ（予定）

小 特 集 の テ ー マ	要旨締切（必着） （A4 判用紙 ,1 500 字以内）	原稿締切 （刷上り 4 ページ厳守）
73 巻 10 号 施設管理の 20 年の歴史を振り返る（仮）	公募なし	
11 号 農業水利施設のストックマネジメント（仮）	平成 17 年 4 月 25 日	平成 17 年 6 月 15 日
12 号 ブロック編集号	" 5 月 25 日	" 7 月 15 日
74 巻 1 号 おらが町の地域再生・町づくり（仮）	" 6 月 24 日	" 8 月 15 日
2 号	公募なし	
3 号 地域資源管理と農業土木政策の展開（仮）	平成 17 年 8 月 25 日	平成 17 年 10 月 15 日
4 号 農村景観法（仮）	" 9 月 22 日	" 11 月 15 日
5 号 農業土木の国際化のあゆみ（仮）	" 10 月 25 日	" 12 月 15 日

73 巻 11 号テーマ：農業水利施設のストックマネジメント（仮）

ダム、頭首工、開水路、パイプラインなど農業水利施設は、わが国の食料生産を担う重要な施設として、戦後はその整備が進み、現存する施設は再建設費ベースで 25 兆円という膨大なストックを形成しています。

しかし、これらの中には、老朽化が進行し、これまで担ってきた役割を果たせなくなった施設、また、近々果たせなくなるであろう施設が多数存在します。昨今の厳しい財政事情の下、施設の機能を持続させていくためには、農業水利施設のストック全体を俯瞰した適切な維持管理と更新が不可欠です。そのため、日常点検をはじめとする定期的な機能診断や、施設を長寿命化させライフサイクルコストを低減させる補修・補強技術、そして実際に施設を管理する土地改良区などにおける管理システムの構築などが重要な課題となっています。

そこで、本小特集では、農業水利施設のストックを今後どのように管理していくべきかについて、会員皆様からのご投稿をお待ちします。なお、ハード面のみならず、経済性、意思決定手法などソフト面に関する内容も期待しています。奮ってご応募ください。

「オフィス便り」・「キャンパス便り」の原稿を募集しています！

学会誌には、会員の職場や学校を紹介するコーナーとして、「オフィス便り」・「キャンパス便り」を設けております。

多くの会員が身近な情報を提供することにより、学会誌を親しみやすいものにするとともに、気軽に投稿できるコーナーとして活用していただきたいと思います。

内容は、学会誌としての特徴を持ちつつ、他の機関誌とは違ったもので、できるだけ学会に関係のある内容、たとえば、

オフィス便りは、「事業実施において特色ある技術の導入」・「技術的に工夫した点」や「地域の魅力」、「技術者継続教育」・「技術力の向上」・「技術者倫理」など。

キャンパス便りは、「研究室の研究内容」・「学科紹介」など。

上記の内容を中心に、より広く事業や地域、また大学や研究室の紹介、その他の取組み状況を含めて、職場、学校として特徴のあるものを募集しています。奮ってご投稿ください。

原稿の長さは、刷り上がり1ページ(1,800字程度)で、写真を1~2枚程度入れてください。

新コーナー：「私の勤める本」の原稿を募集しています！

学会誌編集委員会

学会誌編集委員会では、「私の勤める本」のコーナーを新たに設けました。

会員諸兄姉が、ご自分で読まれて非常に参考になった、視野が広がった、技術者として是非ともいろんな方々に読んでいただきたい等々、「私が勤める本」をご紹介いただくコーナーです。

また、自著をご紹介いただいても結構です。下記要領で、奮ってご投稿ください。

記

1. 原稿の長さ：1,200字（写真・体裁等含む）
刷り上がり1ページ以内（原稿には表紙の写真を含めて下さい。）
2. 原稿受付：随時（メールでの投稿も受け付けます）
3. 送付先：〒105 0004 東京都港区新橋5丁目34番4号
農業土木学会学会誌編集委員会あて
☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494
E mail suido@jsidre.or.jp

あなたの写真で学会誌の表紙を飾ってみませんか

—平成18年「農業土木学会誌」表紙写真の募集—

農業土木学会誌編集委員会

学会誌編集委員会では、平成18年も皆さまからの写真で表紙を飾ることといたしました。つきましては、下記の要領で学会誌第74巻(平成18年1~12月号)の表紙写真を募集しますので、ふるってご応募下さい。

本年もテーマを「水利遺構：先人たちの技術と苦労が垣間見える造形美」として、公募いたします。下記の趣旨をご理解のうえ、多数の応募をお待ちしております。

なお、単写真だけでなく、組写真による応募も受け付けております。組写真では、3~4枚の写真を組合わせて、ストーリー性を持たせた写真にして下さい。

記

1. 趣旨 これまで農業土木技術による構造物は、過酷な自然の猛威にさらされながらも、農業経営、防災などの面で人びとの生活を支えてきました。

特に人力に頼るしかない時代に施工されたものをはじめとする用水路、頭首工、堰堤などの水利施設は、わが国の気象条件や複雑な水利用を考えると、構造物の設計や施工に高度な工夫と多くの労力が必要であったことが容易に想像されます。

それら多くの構築物の中には、かけがえのない風景を生み出す文化遺産ともいべき名高いものもありますが、私たちが身近で目にする農村地域にも、規模は小さくとも凛として美しい文化的な技術遺構がいくつも存在しています。

皆さんの目にとまった構造物で先人たちの技術と苦労が垣間見える造形美を学会誌の表紙写真でご紹介ください。

例年の応募状況から、秋季および冬季の写真についても多数の応募をいただけますよう、お願いいたします。

2. 写真の種類 単写真、組写真いずれもカラープリントで(デジタルの場合は高画質で、ほぼ400万画素以上を目安に)、サイズは六ッ切。組写真の場合は、そのことを明記して下さい。
3. 枚数 応募点数には制限がありませんが、未発表のものに限ります。
4. 締切 平成17年9月30日(必着)
5. 審査 審査委員会(編集委員と写真家)で12点を選びます。
6. 結果発表 学会誌74巻第1号で入賞者と掲載号を発表し、入選作品は、平成18年度大会会場でパネル展示します。
7. 賞品 入選作品1点につき3万円(表紙掲載料含む)。応募者には記念品をお贈りします。
8. 応募資格 学会員でなくとも結構ですので、周囲の方々にもお勧め下さい。
9. その他 応募写真の裏面にタイトル、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、性別、写真のテーマ、撮影場所、撮影月日、撮影データ(フィルム、使用カメラ)を記入して下さい。また、対象物の名称(固有名詞)、対象物をめぐる歴史的背景等の説明(いつ、だれが、どうして等)もお寄せ下さい。
原則として、応募写真は返却いたしません。なお、入選作の著作権は、(社)農業土木学会に属します。
10. 宛先 〒105 0004 東京都港区新橋5 34 4 (社)農業土木学会 農業土木学会誌編集委員会 「表紙写真公募」係

国際水田・水環境工学会 2005 年国際研究集会の開催について

テーマ：持続可能な米生産システム確立における水田・水環境管理

PAWEES 2005 International Conference

On Management of Paddy and Water Environment for Sustainable Rice Production

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



主催：PAWEES; International Society of Paddy and Water Environment Engineering (国際水田・水環境工学会)

共催：日本学術振興会，農業土木学会，韓国農工学会，農業工学研究所，IWMI，IRRI，CIGR，AAAE，JIRCAS，ICID

1. 日時：2005 年 9 月 (水) ~ 8 日 (木)

2. 場所：京都大学百周年時計台記念館国際交流ホール

3. テーマ：持続可能な米生産システム確立における水田・水環境管理

4. 国際研究集会開催の意義と目的

米は，世界の約半分の人口が主食としている穀物であり，波及する経済も考えた場合，地球で最も重要な作物のひとつといえます。特に米の主要な生産地であるアジアの食糧安定供給，貧困，さらに環境などの問題解決においては，水田農業の適切かつ持続的な維持管理の達成は重要な課題となっています。

2005 年 9 月に京都において開催される国際研究集会 [持続可能な米生産システム確立における水田・水環境管理] を主催する国際水田水環境工学会 (PAWEES) は 2003 年 1 月に設立されました。これは，第 3 回世界水フォーラムでも議論された水問題，なかでも非常に重要な役割を果たしている水田稲作農業を，流域レベルの資源・物質循環という観点から評価し直し，環境や人口扶養・貧困問題への効果といった統合的な視点を取り入れた新しい技術・学術体系として確立し，その国際化を図ることの重要性の認識に由来しています。学会は，設立以来世界各地の大学，研究機関，行政機関ならびに民間の研究者・技術者の協力を得て発展してきました。また，学会が発行している学術誌「水田・水環境 (PWE) 」は発行以来多くの支持を集めています。

この研究集会は，内外の研究者のみならず各国の状況に精通した技術者や国際機関の職員を含めた，当分野において主導的役割を担っている者が一堂に会する機会となります。そこで，最新の研究成果の発表および情報交換を行うことにより国際的見識を深めるとともに，水田・水環境分野における今後の重点研究課題を抽出し，将来の国際的研究の方向性を議論します。さらに，過去の研究成果をいかに実社会に還元していくかの方法論を議論し，食料安全保障や発展途上国の貧困と飢餓の撲滅および農村の発展に貢献していくための方策を探ることも視野にいれています。

さらに，研究集会において水田・水環境工学の研究分野を主導する立場の日本と海外の研究者・技術者との過去に築いてきた関係国・地域、関係研究機関等との連携強化が図られるとともに，

その他の諸国の広汎な連携が推進されることも期待されています。

このように，水田・水環境に関連する研究・技術に携わっている方々にとっては非常に意義のある研究集会ですので，ふるってご参加願います。

本事業は独立行政法人日本学術振興会 (JSPS) の助成事業です。

5. 講演発表の募集

1) 研究発表を中心に，下記の 3 テーマに関するセッションが行われます。

セッション 1：水田の多面的機能

(キーワード：正負の機能，外部経済性，定量化，政策とのかわり，など)

セッション 2：水田の統合的 (参加型含む) 水管理と管理技術

(キーワード：流域管理，総合評価，参加型管理，など)

セッション 3：環境・食料問題における水田稲作の役割

(キーワード：エコシステム管理，食糧自給，貧困，など)

2) 講演発表を希望する場合は，平成 17 年 4 月 20 日 (水) 締切日を延長いたしました)までにアブストラクトを提出する必要があります。Science Committee によってアブストラクトは審査され，その採否を発表希望者にご連絡いたします。

ポスターセッションはありません。

3) アブストラクトの提出は，Web サイト：www.jsidre.or.jp/pawees2005 から申込用紙をダウンロードして，必要事項を記入し，E-mail:pawees2005@jsidre.or.jp までお願いいたします。

4) アブストラクトは，英 250 語以内 (表題，所属，氏名を除く) です。

5) 使用言語は，英語です。

6. 主要なスケジュール

1) 講演原稿

アブストラクトの受付開始：平成 17 年 1 月 1 日

アブストラクトの提出期限：平成 17 年 4 月 20 日

原稿採択通知 (e-mail) ：平成 17 年 4 月 26 日 ~ 28 日

採択原稿の提出期限 ：平成 17 年 7 月 10 日

2) 参加登録：

登録期間：平成 17 年 1 月 1 日 ~ 7 月 10 日 (7 月 10 日以降の登録も定員に余裕がある場合のみ，研究集会当日に可能)

参加登録費：10,000円(4月20日以前に登録した場合のみ
5,000円)

講演要旨集は研究集会当日にお渡しします。

7. 問合せ先

松野 裕 (PAWEES 事務局長)
近畿大学農学部国際資源管理学科

〒631 8505 奈良市中町 3327 204

E-mail: matsuno@nara.kindai.ac.jp

吉武 幸子 (農業土木学会編集出版部長)

(社) 農業土木学会事務局

〒105 0004 東京都港区新橋 5 3 4 4 農業土木会館 3 階 1 号

E-mail: pawees 2005@jsidre.or.jp

既刊の土地改良事業計画設計基準の正誤表について

土地改良事業計画設計基準等につきましては、技術の進歩にあわせた改定を行ってきていますが、印刷の段階での誤植のほか、表現等適切とは言えない部分について、多方面からご指摘をいただいております。事務局としては、このような訂正が生じたことに対しお詫び申し上げますとともに、貴重なご指摘をいただいた皆様に感謝申し上げます。また、今後、このようなことがないように、編集・出版に当たり、査読・確認に十分留意してまいりたいと考えております。

今回、こうしたご指摘を踏まえ、正誤表を巻末添付のとおり整理いたしましたので、土地改良事業計画設計基準の活用にあたっては十分ご留意いただくようお願い申し上げます。

今後、修正等があった場合には、定期的に学会誌上に報告させていただきたいと考えております。

(担当事務局：農林水産省農村振興局設計課，農業土木学会事務局)

日本農業工学会第21回シンポジウム 環境型持続的生物生産への挑戦

主催：日本農業工学会

共催：日本学術会議 農業土木学研究連絡委員会

〃 農業機械学研究連絡委員会

〃 農業環境工学研究連絡委員会

〃 農村計画学研究連絡委員会

〃 農業総合科学研究連絡委員会

食料自給率の低迷や産業構造としての弱体化が叫ばれる中で、日本農業を取り巻く情勢はますます厳しさを増しており、将来像が見えにくい状況になっています。一方、科学技術は細分化、精緻化される傾向を強めています。

これまでの私たちの関心は、ハード面の充実に偏重していたといっただけでは言い過ぎでしょうか。ミスマッチも散見されます。必ずしも新鮮な言葉ではないのかもしれませんが、「ハード面とソフト面の融合」ということがいまほど必要とされている時代は従来なかったと考えます。たとえば、作物や家畜の生産効率をひたすら指向するがゆえに、環境問題へのインパクトを生じてきたことも事実です。

有機農法や自然エネルギーを用いた環境に易しく安全な従来の農業が見直されています。農作業の手法や農業従事者の高齢化を総合的に捕らえ、今日の問題になっています食の安全を考えた生産と環境が求められます。よって、労働、作業、再生資源利用と食の安全・安心を念頭に消費者の立場になって、未来永劫にわたっ

て日本農業が健全にいかにか持続するかを議論しますので、つぎの通りシンポジウムを開催致します。ふるってご参加願います。

プログラム

日 時 平成 17 年 5 月 13 日 (金) 13:30 ~ 17:00

場 所 農業土木会館 6 階大会議室

参加費 1000 円 (資料代を含む)

13:30 会長挨拶 中野政詩 会長

13:33 開会の辞 総合司会 岩崎和巳 理事

話題提供講師：

13:35 農業労働の継続的改善ツール

生物系特定産業技術研究支援センター 菊池 豊

14:05 カバ-クロップを活用した持続的農業のデザイン

茨城大学農学部 小松崎将一

14:35 ~ 14:50 休憩

14:50 再生資源としてのナシの剪定枝の有効利用

千葉大学園芸学部 飯本 光雄

15:20 「食の安全・安心」政策とトレーサビリティシステム

農業工学研究所 池口 厚男

15:50 総合討論 司会 日本農作業学会会長 坂井 直樹

16:50 閉会の挨拶 副会長 真木 太一